市民研通信37





10月8日から23日に谷中・根津・千駄木地域で行われる「芸工展」の出展一覧を載せた公式ガイドマップ

- ●「科学ブーム」って、誰がどう仕掛けているんですか? ●博物館の国際動向2016
- ●フランス政府機関 子どもへの電磁波影響を報告 ●食と健康のクイズカード
- ●世田谷の小学校で防災ワークショップ 発がん物質の鍵となる10個の特性



市民研へのご入会/ご寄付のご案内

この『市民研通信』に紹介されている記事論文など、市民研の活動成果は、どなたであっても無償で読んでもらえ るように、ホームページですべてを公開しています。市民研では、こうした非営利・完全公開の趣旨に賛同し支 えてくださる方々に、ご入会やご寄付をお願いしています。

ご送金・ご入会・ご寄付につきましては以下のやり方でお願いしています。

●100円単位の送金 100円単位のカンパや少額の送金(郵送費など)にご利用ください。

市民科学研究室の新しいホームページのメインメニューに「ご支援のお願い」があり ます。そこから「**市民研オンラインショップ**」のサイトにつながります。そのなかに、 「一口100円ご送金」のカートがありますので、ご利用ください。

●会員登録 年会費を送金して次のいずれかの会員になることができます。

★レイチェル会員………年会費 10,000円 (総会における議決権あり) **★ダーウィン会員……年会費 3,000円**

会員になると、

- ・市民科学講座など市民研主催のどのイベントでも参加費(資料代)が半額になります(ただし市 民科学講座Aコースもしくは飲食の提供を伴うイベントについては「半額」は適用されません)。
- ・市民科学研究室所蔵の書籍・文献資料や映像資料を借りることができます。
- ・事前にご連絡いただければ、u-stream配信をすることになるイベントについては、それへのアク セス情報をお伝えします。
- ・事前にご連絡いただければ、各研究会のほぼ毎月行われる会合にskypeで参加できます。
- ・レイチェル会員には市民研が今後発行する有償の出版物などがすべて無償で送付されます。

●ご寄付 一口1,000円から受け付けております。

ご送金の方法は以下のいずれかでお願い致します。

郵便振替………口座加入者名:市民科学 振替口座番号:00160-4-608503 オンライン決済………市民研ホームページの「市民研オンラインショップ」から

Information

第1回「健康まちづくりフェスタ in 文京・台東」 10月29日(土) 13:00-17:00

「まちの"元気"が人々を健康にする」を理念にして、新しいITシステム(※)も活用し た「まち歩き」、そして専門家の協力を得て設計した、コミュニティヘルスの最新の考 え方を取り込んだ「食」や「運動」のワークショップ。これらをとおして、まちの魅力 を再発見し地域のつながりを強めるきっかけを提供します。新機軸の楽しいイベント をぜひで体験ください。予約いただければどなたでもで参加いただけます。

*詳しくは同封のチラシもしくは市民研ホームページの「お知らせ」をご覧ください。 ※この『通信』の「芸工展」「サイエンスアゴラ」紹介のページをご参照ください。

【まち歩き組】13:00-17:00(定員30名)

●まち歩き(約2時間)

眞鍋じゅんこさん(『散歩の達人』でも常連のライター、著書多数)らの案内で、文京区・ 湯島→本郷→千駄木エリアを、医療保健・住民活動などのスポットも含めて散策

●食のワークショップ(約1時間@アカデミー向丘実習室)

小林友依さん(管理栄養士、市民研スタッフ)らが講師となり、調理と健康の両方にとっ て決定的に重要な、「塩」「油」の賢い使い方を学ぶ

●運動のワークショップ(約1時間@光源寺)

高山祐輔さん (Total aid station 代表) らを講師に迎え、「姿勢」「歩き方」を軸に、簡単 で効果の高い下肢筋力のトレーニング法を身につける

【ポールウォーキング組】13:00-14:30 15:00-16:30 (定員各20名)

●ポール・ウィーキング教室@目白台運動公園

日本ポールウォーキング協会の平岡裕美子さん(マスターコーチ)の指導で、午後に2 回の体験教室を実施

Information

市民科学研究室の新ホームページがご活用ください!

特に次の3点をご利用いただければと思っております。

- ●サイト内検索で、キーワードを入れて、記事論文がすぐさま拾えます!
- ●Facebookをなさっている方は、各記事への感想・コメントを書き込んでみてください!
- ●「会費」「寄付」「販売物」では「市民研オンライショップ」からすぐに送金できます!

ヴァーチャル・タイムマシン+GPS音声ガイドで新体験を! 「芸工展2016」と「サイエンスアゴラ2016」に出展します

10月8日から23日に行われる「芸工展2016」では、須藤公園、団子坂、「くらしの道」……千駄 木の一角の魅力あるスポットを、「ヴァーチャル・タイムマシン」とGPS音声ガイドの新しいシ ステムを使って巡ります。市民研事務所に遊びにいらっしゃるついでに、画像と音声の複合に よる、時空的な立体感のある新しいまち歩きをぜひ体験してみてください。

【企画番号86番 会期中の土日午後】

「サイエンスアゴラ2016」では、通常のブース展示に加えて、会場の建物である日本科学未 来館が建造されてくるプロセスを視覚的に再現する体験コーナーも設けました。

【企画番号 Aa-023 11/5(土)+11/6(日)】

いずれも詳しくは市民研のホームページをご覧ください。



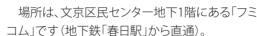
Fveni

市民研・科学コミュニケーションツール研究会 主催 朝から「ネゴバト」でもやってみますか!

生活習慣病に関係するだろう、「わかってはいるけどやめられない」様々な行動(職場の飲み会、 ネット閲覧で夜更かし……等々)を論じ合う、対面交渉のゲーム「ネゴバト」。

今年の夏にゲームパッケージが完成したことを機に、多くの方々にまずは無償で体験していただく 機会を設けたいと思います。

これまでも数多くの試験的な実施の機会を持 ちましたが、今後はとりわけ、地域での健康指導 などでの活用が期待されます。「初対面同士でも 話題に困ることがなく、自分のことを知る機会に もなる」と評価いただいているため、「第1回 健 康まちづくりフェスタ」においても、イベント開始 時に導入することが決まっています。ぜひ一度体 験してみてください。



目にち 11月26日(土)

10:00-11:40 (9:30開場) 時間

フミコム活動室C

参加費





⇒事前予約が必要です(定員24名先着順、申し込みは市民研ホームページより)



〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-1-1 団子坂マンション公園側棟 ☎ 03-5834-8328 / fax. 03-5834-8329 renraku@shiminkagaku.org / www.shiminkagaku.org

NPO 法人 市民科学研究室

五島綾子さん、

「科学ブーム」って誰がどう仕掛けているんですか?

講師:五島綾子

(薬博、理博。スイス連邦工科大学高分子科学研究所客員教授、静岡県立大学経営情報学部教授を歴任)

科学研究には金がかかる。どんな研究にいかなる成果を期待してどれだけの金をかけるか―そのことの、適正で誰もが納得のいく決め方を、いまだどの国も見出していないように思える。一方、科学技術での覇者である国が国際的にも優位に立てる、という世の中であるため、多くの国において行政サイドが科学技術政策によって達成目標を掲げ、それに応じて大規模な資金を重点的に配分することが慣わしとなった。かかる状況で大きな役割を果たすのが、「"奇跡の"科学技術〇〇〇」が実現するだろうことを社会に印象付ける「科学ブーム」の勃興である(例えば90年代~2000年代では〇〇〇はナノテクノロジーだったと言えるだろう)。いくつかの科学ブームの例を取り上げて、その仕掛けから幕引きまでを調べると、行政、研究者コミュニティ、企業、ジャーナリズム、市民のそれぞれが何を担い、何を共有し、何を議論できるようにしておくべきかが、みえてくるのではないか―五島綾子さんの『〈科学ブーム〉の構造 科学技術が神話を生みだすとき』で示されているデータや分析を手がかりに、科学技術を育て方向づけることにまつわる諸問題を、著者とともに考究してみたい。

⇒講義録は市民研 HP で

『〈科学ブーム〉の構造 科学技術が神話を生みだすとき』 五島綾子著 みすず書房 2014





Report

阿部佐紀子(市民研・「市民と防災」研究会)

大地震から命を守るシミュレーション

~世田谷区代沢小学校・単位PTA研修会で防災ワークショップ~

9月14日(水)に世田谷区の代沢小学校の「単位PTA研修会」にて、市民科学研究室「市民と防災 研究会」のメンバーが講師を務めての防災ワークショップが開かれました。研究会メンバーの一人である阿部佐紀子さんが、ご自身の娘さんが通うこの代沢小学校のPTA研修委員の方々と話し合いつつ、この企画の立案から実施まで、中心的役割を担ってくださいました。当日は保護者と教員の皆さんあわせて30数名が参加し(PTAの会長さんや校長先生もご参加くださいました)、市民研・防災研究会のメンバーである石坂信之さんからの簡潔なレクチャー「首都圏直下型地震で注意したいこと」を受けた後、地区ごとのグループに分かれて、世田谷区のハザードマップを読み解きながら、いつどこをどう避難すべきなのか(できるのか/できないのか)、いつ何をどう備えればよいのか……といったことを、詳細に検討しました。

参加者からのアンケートの結果など も含めて、阿部佐紀子さんから報告して いただきます。





⇒続きは市民研 HP で

Article

林浩二(千葉県立中央博物館)

連載 博物館と社会を考える

第5回 博物館の国際的動向2016

前4回から少し離れて、今回は博物館分野における国際的動向を見ていきたいと思います。ここ数年、世界の博物館界では大きな出来事が相次いでおり、また今後数年間に日本国内で計画されている大きなイベントがいくつもあります。あらゆる館種の博物館やその周辺で活動する方々にとって、それらの動向にどんな意味があるのかわたしなりに見ていきたいと思います。

1. ICOM ミラノ大会 (2016)

今年、2016年は国際博物館会議 (International Council of Museums 以下、ICOMと略します) の 3 年に 1 回の大会 (General Conference) が開催される年に当たります。今回の開催都市はイタリア北部のミラノ市、世界文化遺産をいくつも擁する歴史と文化の町です。ICOMの第24回大会は2016年 7月 4日~9日にミラノの国際会議場 (Milano Congressi、MiCo) を中心とした会場で開催されました。世界129の国と地域から博物館職業人 3,433名が集まったとのことです。

⇒続きは市民研 HP で



ICOM 2016 ミラノ大会 開会式。大会中、これが最大の会場で、基調講演等の他、最終日の総会 (General Assembly) が行われた。 (MiCo ミラノ国際会議場で 2016.7.4 撮影、パノラマ画像)

Report

市民研「食の総合科学研究会」作成

名刺大のクイズカード「食と健康 知っておきたい42の常識」 ~食育活動への活用を展開中~

多くの人に知っておいていただきたい「食と健康」に関する、科学的なデータに基づいた知識を、名刺大の美麗な42枚のカードのクイズにしました。現在、「健康まちづくり」 事業の一環として、文京区・台東区内のレストランなどのいくつかの店舗に置かせていただくことから普及をはかろうとしています。

店舗などへの普及にご協力いただける方や、食育活動などで活用してみたいと思われる方は、こちらまでご一報ください。

問と答の全文は、市民科学研究室ホームページにも掲載しています。



Article

市民研「環境電磁界研究会」から資料紹介

フランス政府機関、子どもへの影響で報告書 「電磁波曝露基準の再考を」

フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES, French Agency for Food, Environmental and Occupational Health & Safety)は、高周波電磁波曝露による子どもの健康影響の可能性についての報告書を7月8日に公表した。その報道発表は、高周波電磁波への曝露が子どもの認知機能と健康な暮らしぶりに影響する可能性があるして、親が携帯電話通話の頻度や時間を制限するなど、子どもが無線通信技術を適度に利用することを求めている。さらに、電磁波曝露基準の再考が必要との見解も示した。

報道発表「高周波電磁波への子供たちの曝露:無線通信技術の適度な、そして監督された使用のための要請」を翻訳して紹介する。

- ●出典:Exposure of children to radiofrequencies: a call for moderate and supervised use of wireless technologies
- ●翻訳:網代太郎(電磁波問題市民研究会、市民科学研究室「環境電磁界研究会」)+ 上田昌文(市民科学研究室「環境電磁界研究会」)





翻訳: 五島綾子

五島廉輔

上田昌文

Overseas Document

【翻訳】 発がん物質の鍵となる特性: 発がんメカニズムの根拠となるデータの統合

Environmental Health Perspectives 124巻6月号(2016年)より

原題 Key Characteristics of Carcinogens as a Basis for Organizing Data on Mechanisms of Carcinogenesis

著者 Martyn T. Smith (Division of Environmental Health Sciences, School of Public Health, University of California, Berkeley, Berkeley, California, USA) 他15名

1)背景

国際がん研究機構 (the International Agency for Research on Cancer (IARC)) の最近のレビューはヒトに発がん性があるとしてグループ1に分類される100以上の作用物質についての評価を更新した(IARC Monographs Volume 100, parts A-F)。この任務は困難を伴った。何故ならば、発がん物質のヒトへの暴露の有害性に関する結論を実証するために、機械論的データを評価する一般的な体系的方法が今まで欠けていたからであった。

2)目的と方法

IARCはそれ故に二つのワークショップを招集した。そこでは、国際専門家ワーキンググループは10 箇の鍵となる特性を確認した。それらの特性の一つまたはそれ以上が、ヒトの発がん物質であることが確定した物質に共通して見出されている。

⇒続きは市民研ホームページの「活動と資料」の なかの「海外文献翻訳」でお読みいただけます。



Characteristic 1. Is electrophilic or can be metabolically activated 2. Is genotoxic 3. Alters DNA repair or causes genomic instability 4. Induces epigenetic alterations 5. Induces oxidative stress 6. Induces chronic inflammation 7. Is immunosuppressive 8. Modulates receptor-mediated effects 9. Causes immortalization 10. Alters cell proliferation, cell death or nutrient supply